

八王子消化器病院ニュース

第30号

医療法人財団 中山会

八王子消化器病院

消化器病専門医療機関・東京女子医大関連病院

日本医療機能評価機構認定病院

〒192-0903 東京都八王子市万町 177-3

TEL: 042-626-5111

www.八王子消化器病院.com

制作 (株) 教育広報社

# おおるり

## HACHIOJI DIGESTIVE DISEASE HOSPITAL NEWS



### 病院新体制について

八王子消化器病院  
理事長  
鈴木 衛

◆大災害と安全・安心な医療◆  
平成23年度の初めにあたりご挨拶申し上げます。

3月11日に東北地方太平洋沿岸を中心に震災と津波による未曾有の大惨事を引き起こした東日本大震災は、1ヶ月を経た現在もまだ被害実態の掌握ができず、多くの方々が避難所でご不自由な生活を余儀なくされている状況であります。一日も早く被害に遭われた方の救済と復旧がすむことを願っております。八王子消化器病院は、幸いにも今回の震災による直接的被害は蒙りませんでした。しかし、患者様には計画停電等の影響で、予定された検査が実施出来なくなり多大なご迷惑をおかけしました。非常時の緊急対応を可能にする当院の自家発電装置は停電発生から数秒後に自動的に稼働いたします。しかし、突然の停電状態下では中には危険を伴う検査もありますので、検査の中止や予定日を変更させていただくことがあります。これらの措置は患者様の安全を最優先するために必要なことですので皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。なお、当院手術室に関しては、停電発生時優先的に非常用電力が供給され、いかなる場合でも安全な手術実施が可能でありますのでご安心ください。

では、一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。また、病院として間接的にはありますが、すでに被災地への義援金を始めとする支援活動を開始しました。今後はこれから社会に巣立とうとした矢先に採用内定を取り消されたり職場を失った高校生を中心に職場、宿舍を提供するなど病院を挙げて息の長い支援に取り組んで参ります。

### ◆人事の刷新と新体制◆

この様な状況下で4月1日から平成23年度の八王子消化器病院の医療活動が始まりました。私は、平成21年12月に羽生富士夫前理事長から理事長職を引き継ぎ、以来1年3ヶ月間理事長と病院長を兼務してまいりましたが、この4月1日付で原田信比古病院長に病院長職を委譲しました。今後は原田病院長が病院医療活動の最高責任者として患者様に対応いたします。私は、理事長専任となり医療法人財団中山会の代表として八王子消化器病院の全般的な管理運営を行っていく所存であります。

このトップ人事に加えて、本年度は病院管理職についても大幅な人事異動を行いました。副院長に武雄康悦病院長、医局長に鈴木修司病院長を就任させ、外科の小池伸定医師、梶理史医師を病院長に昇格させました。また、小池真弓看護師長を看護部長代理に昇格さ

せ看護部の運営管理を任せ、事務職では海藤隆総務課長を事務次長とし管理部門の強化を画りました。

さらに、医師3名をはじめとし、看護師7名、検査技師2名、その他10名が新たに加わり既に新入職員研修を終了し各部署へ配属され、先輩職員の指導で業務を開始しております。いまだ不慣れな点もありますが、

一日も早く当院の医療理念である「患者様のための医療」を理解し実践を通して、患者様に安全で安心な医療活動を提供できるプロの医療スタッフになる教育をいたします。

### ◆開院30周年に向けて◆

来年平成24年5月に八王子消化器病院は開院30周年を迎えます。昭和58年に子安町に中山記念胃腸科病院として開院して以来、消化器疾患の専門病院として八王子市のみならず三多摩地域の有数な消化器疾患治療の基幹病院として医療活動を行っております。年間に実施する消化器疾患の手術数は700例以上、消化管内視鏡検査数は1万件以上、1日平均外来患者数240名、平均在院日数6.1日、ベッド稼働率85%と98床の中小規模病院ではありますが、近隣の大学附属病院の消化器疾患手術実施数を超える診療実績を上げております。一方で、患者様サービスの向上を画るため接遇教育を徹底し更に、医療従事者としてのプロ意識を高めるための職員教育を継続して行っております。この成果を結集し中小であるが故に可能となる、きめの細かい心の通った医療の提供を目指し、今後とも八王子消化器病院の職員全員が一丸となり、患者様・ご家族様に愛され信頼される病院となるべく努力を続けてまいります。



## 院長就任のご挨拶

八王子消化器病院 院長

原田 信比古

この度、4月1日付をもちまして八王子消化器病院の院長に就任いたしました。故中山恒明先生が創設された中山記念胃腸科病院から発展した当病院の責任者として、この職責を与えられましたことは誠に光栄であるとともに、その重責に身の引き締まる思いであります。

私は、昭和60年に医科大学を卒業し、消化器外科医としての道を選び、当時、最も手術件数が多く、評価の高かった東京女子医科大学病院消化器外科へ入局いたしました。

以来、消化器外科全般、特に膵・胆道の外科に関し学会活動をはじめ、診断・手術・研究等を故羽生富士夫前理事長、今泉俊秀教授、鈴木衛理事長から、昼夜を分かつたぬ厳しい薫陶を戴くなかで、18年在籍しました。

この間、羽生教授のご推挙でドイツに2年間留学し、欧州の医学についても学ぶ機会を与えられました。平成14年に当消化器病院の外科医長として赴任してからは、民間病院としてのあるべき姿、病院運営について学び、今日に至っております。

◆ ◆

当院は昭和58年、故中山先生のもと林恒男元院長（現顧問）を中心に消化器疾患の専門病院として開設され、以来28年間、ここ八王子の地で地域医療の一角を担ってきました。平成14年に子安町から現在の地に移転してから早9年が経ちますが、この間、鈴木前院長のもとで新病院の建設、電子カルテをはじめとした業務のIT化、手術や各種検査における最新機器、技術の導入、職員の接遇教育など、ハード・ソフトの両面から病院組織の改革を行ってまいりました。

これらの取り組みに加え、多くの先輩方の努力と患者様、医療関係の皆様のおかげにより、地域に根ざした専門病院としての基盤が整いつつあります。しかしながら、当院の真価は、これから厳しく問われてくるのだと思っております。

昨年は羽生前理事長の逝去により、私たちは大きな後ろ盾を失いましたが、開院当初からの「理念」と、受け継がれてきた「技術」を基本とし、職員の結束によつて、この危機を乗り越えることができました。

◆ ◆

当院の基本理念である「患者様のための医療」は、今日では多くの医療機関で当然の理念とされるようになりました。しかし、中山教授が東京女子医科大学消化器病センターを設立された当時（昭和40年頃）の医学界では、医療の原点に立ち返ることを提唱した、きわめて斬新な考え方でありました。

この病院として最も基本的な「患者様のための医療」という理念は、私も医療に携わる者が考えるとき「自分が患者であればどんな病院にかかりたいか」と言い換えることができると思います。自分が患者の一人として、安心して任せられる病院像を実現することこそが「理念」の実現につながるものと考えています。

このような医療を実現するためにはいくつかの条件が考えられます。

第一にあげられるのは技術であります。さまざまな条件を満たしていても、優れた医療技術がなければ、患者様の要望に応えることはできません。日々進歩する最新医学を取り入れて、難度の高い治療も行えるよう努力を続けなければ、医療は次第に衰退してしまいます。しかも、医療はチームプレーですから、全体のレベルが協調してはじめて良い医療を提供することができるのです。

第二は安全の確保です。いかに高度な技術を誇つていても、安全な治療が完遂できなければ、医療としての意義が失われてしまいます。医療レベルが高ければ高いほど高度な医療安全が要求され、技

術と安全が車の両輪として、相まって進歩しなければなりません。

第三には、信頼され、安心してかけられる病院であることです。いかに高度な技術と安全性を持っていても、患者様と医療者とのコミュニケーションが良好で、信頼関係がなければ、治療の効果を十分にあげることができないと思います。病院は生命の危機という極限の状態の中で、人と人が接する場ですから、患者様の不安や苛立ちを十分に理解し、寄り添える心を込めた接遇が求められると思います。そして第四に、最初から最期まで一貫した治療が継続できる病院でありたいと思っております。これには病床数や入院日数の制約から多くの課題がありますが、その実現に向けて取り組んでいきたいと考えています。

私がかここで掲げた「技術」「安全」「信頼」「継続」の課題は医療機関に限ったことではなく、社会に貢献しようとする組織や団体が共通した問題として取り組んでいます。いわば「当たり前」のことなのです。しかし、この「当たり前」のことを地道に、着実に実行することこそ「患者様のための医療」の実現につながると確信しています。

◆ ◆

過日の東日本大震災によつて、日本の社会は大きな変革に迫られています。医療の世界も例外ではなく、多くの問題が波及してくるものと思われませんが、堅実に、そして前向きに進んでいくことをお約束し、就任のご挨拶いたします。

### 誇りと

## 使命感をもつて

八王子市  
元横山町在住 榎崎 彰男さん



友の会から原稿の依頼があった。もう現役を離れて久しいので私の出番ではないとお断りしたが、たつての強いご要望なので一文に苦勞する仕儀となった。

聞けば病院は執行体制を強化し、より充実した医療機関を目指すとのことである。これはもとより大歓迎の話で、今までも関係者の不断の努力で、消化器専門の拠点病院として高い評価と信頼を得てきた。  
今後は理事長、院長、副院長などの役員体制が強化されるとのこと、さらなる充実した病院経営が期待される。

### ◇医療は究極のサービス

病院は究極のサービス機関だと思っている。人の病を治し、命を救うという究極のサービスを提供してくれる組織だからである。

私は検査などを通して消化器病院にお世話になってきたが、サービス機関としては申し分のない人的・技術的レベルの高い水準にあると感じている。

患者は多くの場合、不安定な心理状態にある。矢張り命の問題だけに過敏にならざるを得ないのだ。医師の言葉遣いや表情、頷きなどによって、患者の心理は一喜一憂するものだ。医師の分かり易い説明や自信を持った態度が患者に信頼感を抱かせてくれる。

看護師のきびきびした動きや適切な仕種に患者は安心感を抱き、さらに優しい言葉掛けは患者には心安まるものとなる。

病院のあらゆるスタッフの仕事ぶりも病院の印象を左右する。人によって病院の評価は千差万別である。それだけに百人百様の対応を求められる病院のスタッフの気苦勞には大変なものがあると思う。しかし、人の命を預かる究極のサービス機関で働く誇りと使命感を持って、日々の努力を惜しまないで欲しい。今回の体制の強化を機に一層の充実発展を期待するところ大である。

### ◇私の健康法

八十路半ばを迎えた私だがお蔭様で特段の持病もなく、まず健康な日常を過ごしている。「何か健康法でも」とよく聞かれるが、とりたてての健康法はない。強いて言うなら「こまめな健康診断」と「何事にも過ぎないこと」に心掛けているぐらいである。

私は「かかりつけ医」として消化器病院を頼りにしている。だから毎年定期的な健康診断を欠かしたことがない。そして専門以外の脳ドックや循環器系などは、それぞれの専門病院を紹介してもらっている。

もう一つの「何事にも過ぎないこと」の心掛けは、ある年代を過ぎてから特に気をつけている。飲食も運動もあるいは諸々の欲の面でも「過ぎる」ことは百害あって一利もないからである。私はそんな生活のリズムを大事にしており、このことが無病息災につながっているのだと

思っている。

### ◇三月十一日の大震災

私がこの原稿を書いているのは三月の下旬であり、三月十一日に発生した東北関東大地震の混乱はまだまだ深刻な状況が続いている。この想像を絶する大地震・大津波の被害は、地域を根こそぎさらい、死者・行方不明者が二万人をはるかに超えるという未曾有の大災害となった。私は言葉を失った。

犠牲となられた方々に衷心よりのお悔やみを申し上げ、罹災された多くの方々へ心からのお見舞いを申し上げます。

これからは、被災された方々が一日も早く立ち直れるよう、出来るかぎりの支援の手を差し

伸べる事が、私たちの務めだと考える。

この大地震による直接の被害はもとより、計画停電の実施や国民の生活行動の自粛ムードなどによって、日本の経済活動が大きく後退する恐れがある。しかし、私たちはここで経済活動を萎縮させてはならない。これから始まる息の長い復興を支えるためには、節度をもって社会全体の経済活動を盛り上げることが不可欠だからである。

こうした国家的危機に直面した今、国は国民の叡智を結集し、一刻も早い再生・再建への道筋をたて、実行に移すことが求められている。日本存亡の危機に臨んで、挙国一致、電光石火の取り組みが待たれる。

### ロビーコンサート延期のお詫び

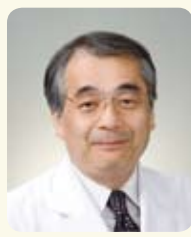
今回の大震災それに続く原子力発電所事故により社会生活が大きく損なわれる中、病院も例外でなく多大な影響を受け、その対応と診療体制の維持に苦慮しております。こうした状況から三月のロビーコンサートを延期致しました。心からお詫び申し上げます。

なお、次回(5月27日)は、今回と同じ内容での開催を予定致しております。

### ～アンサンブルの夕べ～

演目	バッハ：アヴェマリア	他
	ブラームス：ピアノ三重奏	
出演	阿部真也 (Shinya Abe)	／ヴァイオリン
	石川理史 (Masashi Ishikawa)	／チェロ
	石井楓子 (Kaedeko Ishii)	／ピアノ

# ドクタープロフィール 2011



**理事長** すずき まもる  
**鈴木 衛**

専門分野： ◎大腸・肛門外科  
◎肝・胆・膵外科  
東京女子医科大学 非常勤講師  
昭和 51 年 三重大学医学部卒業



**院長** はらだ のぶひこ  
**原田 信比古**

専門分野： ◎肝・胆・膵外科  
東京女子医科大学 非常勤講師  
昭和 60 年 宮崎医科大学卒業



**副院長** たけお やすよし  
**武雄 康悦**

専門分野： ◎消化器内視鏡  
検査・治療  
東京女子医科大学 非常勤講師  
昭和 60 年 東邦大学医学部卒業



**顧問** はやし つねお  
**林 恒男**

専門分野： ◎消化器内視鏡  
◎食道外科  
東京女子医科大学 非常勤講師  
昭和 44 年 千葉大学医学部卒業



**外科医長** すずき しゅうじ  
**鈴木 修司**

専門分野： ◎肝・胆・膵外科  
◎消化器放射線診断  
◎癌化学療法  
東京女子医科大学 非常勤講師  
平成 2 年 筑波大学医学専門学群卒業



**外科医長** こいけ のぶさだ  
**小池 伸定**

専門分野： ◎肝・胆・膵外科  
東京女子医科大学  
消化器病センター外科助教  
平成 6 年 徳島大学医学部卒業



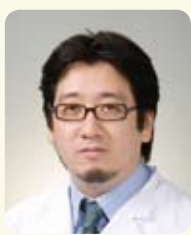
**外科医長** かじ さとし  
**梶 理史**

専門分野： ◎肝・胆・膵外科  
◎食道外科  
東京女子医科大学 前外科助手  
平成 8 年 福井医科大学卒業



**医師** さいだ しん  
**齋田 真**

専門分野： ◎消化器外科  
東京女子医科大学  
消化器病センター外科助教  
平成 11 年 札幌医科大学卒業



**医師** もりした けいいち  
**森下 慶一**

専門分野： ◎消化器内科  
◎胆膵画像内視鏡処置  
東京女子医科大学  
消化器病センター内科助教  
平成 12 年 帝京大学医学部卒業



**医師** なりた とおる  
**成田 徹**

専門分野： ◎消化器外科  
東京女子医科大学 第二外科助教  
平成 15 年 富山医科薬科大学医学部卒業



**医師** おざき ゆうひ  
**尾崎 雄飛**

専門分野： ◎消化器外科  
東北大学医学部 第二外科前医員  
平成 15 年 埼玉医科大学医学部卒業

## 糖尿病外来

雨宮 禎子医師 東京女子医科大学糖尿病センター前講師  
小田桐玲子医師 東京女子医科大学糖尿病センター非常勤講師

## 生活習慣病 (リウマチ・痛風・膠原病)

岡本 祐子医師 東京女子医科大学膠原病リウマチ痛風センター医員

### 想うこと



3 月 11 日午後 2 時 46 分  
「固唾を呑んで見守る」という形容があるが、正にその通りに被災地から送られて来る信じ難いテレビ映像に釘付けになり言葉を失った。直近のニュージーランド、一年前のハイチそして六年前のスマトラ島沖の悪夢の再現となった東北関東大震災の惨状である。国難とも言うべきこの大災害は、近い将来必ず起こると言われる東海地震・東南海地震に対し、

実感の乏しかった我々を震撼させ、重大な警鐘を鳴らした。刻々と送られて来るニュースに改めて備えの大切さと有事の際の対応を痛感させられた。

僅かながらも復興に向けての兆しが見え出したという今、被災された方々の二次的健康被害の少なからんことを念ずると共に、一日も早く元の生活に戻ることができるよう切に願うばかりである。

事務長 久野久夫